ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	No.8	調査位置						北　緯	36 ° 20 ' 15.0000 "
発注機関	栃木県足利土木事務所			調査期間	2008-07-22 ～ 2008-07-23			東　経	139 ° 28 ' 00.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	36.28 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	4.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	35.98	0.30	0.30		表土 (SF)	暗灰			礫が若干混入するシルト主体の粘性土。		
	35.58	0.40	0.70		礫混り粘性土 (C-G)	茶褐			礫径10～30mmの角礫が混入するシルト質砂。崖錐性堆積物。		
1					風化岩 (WR)	黄褐			全体に風化が進み開口亀裂が発達著しく、赤褐色の酸化鉄の沈殿が認められる。 泥岩主体の砂岩との互層で、泥岩が特に軟質化している。 礫状コア主体。部分的に岩片状を呈する。CL級主体。		
2	34.28	1.30	2.00		中硬岩 (MR)	黒灰			単層厚10cm前後の砂岩泥岩互層で、泥岩部は若干粘土化している部分がある。 層理面粗って亀裂が発達し、コア長は5～10cm程度主体で、GL-2.60～3.15m間亀裂多く礫状コア主体。 概ねCM級主体。		
3											
4	32.28	2.00	4.00								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.00	50／0			50／0	>50
2.00	50／0			50／0	>50

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
				07/22
				07/23